

マイクロプラスチックって何？

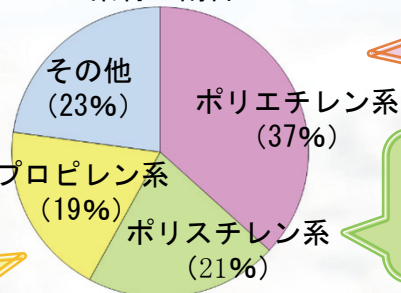
近年、海洋プラスチックごみが生態系に与え得る影響等について国際的に関心が高まっています。なかでも、特に問題視されているのが「マイクロプラスチック」です。

マイクロプラスチックとは、歯磨き粉や洗顔剤に含まれるビーズなどの小さなプラスチック、またはレジ袋やペットボトルといったプラスチックごみ等が、紫外線や波によって5mm以下まで細くなったものをさします。

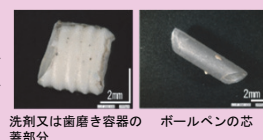
これらマイクロプラスチックは、多くが容器や生活雑貨など身の回りのごみに由来しており、その小ささゆえに環境中での回収は困難とされています。



マイクロプラスチックの素材の割合

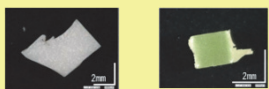


<用途例>
レジ袋、食品容器、
台所用品、ロープ、
ポリタンク、
肥料カプセルなど



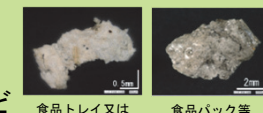
洗剤又は歯磨き容器の蓋部分 ボールペンの芯

<用途例> 洗剤ボトル、
台所用品、文房具、
家電や自動車の部品など



容器の蓋、文房具等 梱包用バンド等

<用途例>
食品トレイ、食品容器、
カップ麺容器、
CDケース、緩衝材など

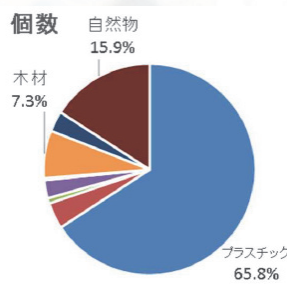
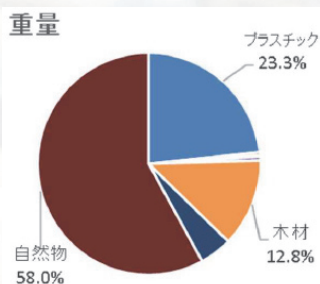


食品トレイ又はカップ麺容器 食品パック等

富山県内の海岸におけるマイクロプラスチック

出典：富山県 富山県内の海岸におけるマイクロプラスチック実態調査（2017）

環境省の調査によると、種類別では重量ベースで自然物が多いものの、個数ベースではプラスチック類が最も高い割合を占めており、また、このまま増え続ければ、2050年までに海洋中のプラスチックごみの重量が魚の重量を超えるとの国際機関の試算もあります。



	重量	個数
プラスチック	23.3%	65.8%
金属	0.4%	4.0%
布	0.2%	0.8%
ガラス・陶器	0.6%	2.8%
紙	0.03%	0.3%
木材	12.8%	7.3%
その他人工物	4.7%	3.1%
自然物	58.0%	15.9%

重量別、個数別の海ごみ成分割合

出典：環境省 平成28年度漂着ごみ対策総合検討（2016）

マイクロプラスチックの問題点

1. 回収が困難

マイクロプラスチックは非常に細かく、海中や海岸から回収することは困難です。

さらに、プラスチックは分解されないため、半永久的に自然界に残ります。

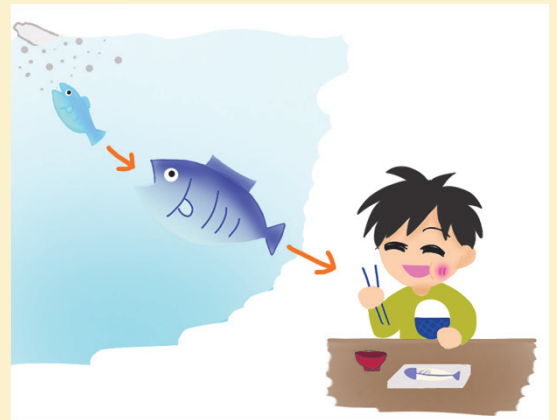


2. 海洋生態系への悪影響

マイクロプラスチックは海洋生態系にも影響を与えます。海洋生物が餌と間違えて食べることで、内臓を傷つけ、あるいは腸閉塞を起こして死んでしまう場合があります。

3. 健康への悪影響

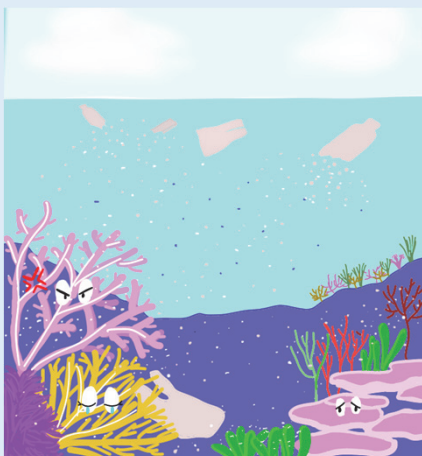
私たちの健康への影響については、科学的に未解明の部分が多いですが、マイクロプラスチックに含まれる、又は吸着する化学物質が食物連鎖中に取り込まれることによって、悪影響を及ぼすおそれがあるとされています。



4. 海洋産業等への経済的な悪影響

観光業においては、汚染された海や海岸では魅力が損なわれてしまいます。

また、マイクロプラスチックがサンゴに取り込まれ、サンゴと共生関係にある藻類が減り、その共生関係が崩れてしまう事例などもあり、観光業だけでなく漁業、養殖業等での収入が減ることによる経済的損失も懸念されています。



マイクロプラスチック問題への対策

海ごみは、その約8割が国内および国外の陸上でポイ捨てや不法投棄されることで流れ出たごみであることが分かっています。

プラスチックごみは、マイクロプラスチック化して回収が困難になる前に、速やかに処理する必要があります。

マイクロプラスチック問題への対策として、私たちにもできることがあります。

1. プラスチックごみの発生を抑制する

マイバッグを使用し、プラスチックストローは使用しないなど、プラスチックごみの発生抑制を心がけましょう。スーパー等で行われるプラスチックトレイなどの資源回収に協力するのも有効です。



富山県内のスーパーマーケットなどではレジ袋の削減や資源物の回収などをしていから無駄なごみを出さなくてすむね



2. ごみは必ず持ち帰る

ペットボトルの空き容器や、レジャー施設での釣り・キャンプ道具等は、ポイ捨て・不法投棄せずに持ち帰りましょう。

3. 河川や海岸の清掃活動に参加する

地方公共団体、民間団体等によって河川や海岸の清掃活動が行われています。こうした活動に参加しましょう。

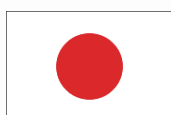
◎ 私たちのまわりの公園や道路などに捨てられたごみは、海から遠く離れていても、雨や風で川に運ばれ、やがて海に流れ出ます。

私たちの住む地域は、どこも川や海につながっていて、捨てられたごみはいつか海に流れ着いてしまうということを忘れずに。

各国の取組み

マイクロプラスチック問題への対策として、世界では、ごみを減らすことだけではなく、プラスチック自体を減らす取組みが進められています。レジ袋やプラスチック製ストローの使用を禁止する国や企業も増加しています。

各国では、次のような取組みが始められています。



日本

レジ袋の有料化を実施
プラスチック容器などの資源回収を実施



中国

レジ袋の生産・販売・使用を禁止
農村などで地域全体で生活ごみを減らす取組みを実施



韓国

レジ袋の有料化を実施
漁師や事業者、市民団体が協力した清掃活動を実施



ロシア

リサイクル可能なプラスチック、ガラス、紙類、
段ボール、アルミ缶などの分別回収を義務付け



モンゴル

レジ袋の販売・使用を禁止
国境を越えて海と繋がる川でのごみを減らす取組みを実施

美しい海を取り戻し、それを維持して行くためには、
皆さんによる積極的な取組みが必要です。



〒930-8501 富山県富山市新総曲輪1-7

富山県総合政策局国際課 (TEL: 076-444-3158、FAX: 076-444-9612)

〒930-0005 富山県富山市新桜町5-3 第2富山電気ビルディング8階

富山県生活環境文化部環境政策課 (TEL: 076-444-8727、FAX: 076-444-3480)

2021年3月発行